

2 0 2 5 年 3 月 3 1 日

川西市議会議長 様

会派（呼称）名 川西まほろば会

議 員 名 加藤 仁哉

議員名欄は署名又は記名

管 外 調 査 報 告 書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

1 調査者氏名 秋田修一、西山博大、松隈紀文、岡田龍太郎、加藤仁哉

2 調 査 先

鹿児島県大崎町、熊本県八代市、宮崎県宮崎市

3 調 査 期 間 2 0 2 5 年 3 月 2 6 日

2 0 2 5 年 3 月 2 7 日

4 調査結果の概要

別紙参照

1. 鹿児島県大崎町視察の意義（3月26日）

大崎町は、12回連続で自治体の資源リサイクル率日本一を達成した「大崎リサイクルシステム」で知られています。この視察の意義は、川西市におけるごみ減量化と資源化率向上に向けた具体的な施策を学ぶことにあります。

大崎町職員による徹底した住民説明を地域ごとに3回繰り返し行った結果地域の協力を得て実現したもので、住民・事業者・行政が一体となり、45種類もの分別を行うことで、徹底したリサイクルを行っています。このシステムは、単に分別を徹底するだけでなく、住民への啓発活動や、地域の実情に合わせた柔軟な制度設計が鍵となっています。

大崎町 SDGS 協議会による説明

ごみ埋め立て場見学



ゴミ最終処分場



堆肥製造場所



使用済み食用油の再生機器



使用済みおむつの再生商品



川西市においても、人口構成や地域特性を踏まえ、持続可能なリサイクルシステムを構築する必要があります。大崎町の成功事例を参考に、市民の意識改革や、効果的な分別・回収システムの導入を検討することで、ごみ問題の解決に繋がれると期待されます。当日は、川西市美化推進課と大崎町役場環境政策課とのズームによる質疑応答が行われました。

2. 熊本県八代市 有限会社ひらやま視察の意義（3月27日）

有限会社ひらやまが取り組む休止循環式陸上養殖システムは、「食」と「環境」の両立を目指す先進的なモデルです。この視察の意義は、廃棄物削減、資源循環、エネルギー効率化など、持続可能な食料供給システムの構築に向けた知見を得ることにあります。

同社のシステムは、排水を利用した水耕栽培や、廃校・耕作放棄地・空き家の活用など、地域資源を最大限に活用した循環型社会の構築を目指しています。これらの取り組みは、環境負荷の低減だけでなく、地域経済の活性化にも繋がる可能性を秘めています。

有限会社ひらやま 代表による事業説明



廃校を活用した陸上養殖と水耕栽培



廃校内の見学



サーモン養殖とアクアポニックス見学



川西市においても、耕作放棄地の増加や空き家、廃校活用問題など、様々な課題を抱えています。ひらやまの事例を参考に、地域資源を活用した新たな産業創出や、環境保全と経済発展を両立させるための施策を検討することで、持続可能な地域社会の実現に繋がれると期待される取組を学びました。

3. 宮崎市中心市街地活性化視察の意義（3月27日）

宮崎市の「まちなか活性化推進計画」は、創造産業の集積、職住近接のまちづくり、公民連携によるエリアマネジメントなど、多岐にわたる施策を展開しています。この視察の意義は、これらの施策の実施状況と成果を直接確認し、川西市の中心市街地活性化政策に活かすことにあります。宮崎市では、老朽化した建築物の対策や、新たな賑わい創出のためのイベント開催など、様々な取り組みが行われています。これらの取り組みは、中心市街地の活性化だけでなく、地域の魅力を高め、新たな雇用創出にも繋がる可能性があります。

宮崎の中心市街地の見学



「マチナカ 3000」プロジェクトは、宮崎市の中心市街地活性化を目指し、3,000 人の雇用創出を計画より早く達成しました。ICT、広告、デザインなどのクリエイティブ産業の集積が進み、「みやざき創業サポート事業」により新規事業の立ち上げが促進されました。また、「まちなか商業業務集積推進事業」を通じて事業所や店舗の集積を支援し、ICT 人材の集積が地元企業の成長や県外企業の進出を促しました。さらに、「宮崎市 = ICT が盛んな都市」というイメージが都市圏で定着しつつあります。これらの成果により、宮崎市は「日本で一番挑戦できるまち」を目指し、中心市街地のさらなる活性化と地域経済の発展を目指している。川西市においても、中心市街地の空洞化や、高齢化による活力低下など、様々な課題を抱えています。宮崎市の事例を参考に、地域特性を踏まえた効果的な活性化策を検討することで、賑わいのある魅力的なまちづくりに繋がられる事例を学びました。